

あ い さ つ

会長挨拶

高知女子大学看護学会会長 山崎 智子

おはようございます。ただ今ご紹介いただきました、学会長を務めます山崎でございます。高知女子大学看護学会主催の講演会に皆様ご参加くださりましてありがとうございます。長かった梅雨もようやく明けましたけれども、まだまだ天候定まらぬ今日この頃でございます。四国四県からの一般参加の皆様方、そして里帰りの意味も含めて今日のこの日に焦点を合わせてご参加くださいました学会員の皆様どうもありがとうございます。

本学会も回を重ねまして19回になりました。このように成長いたしましたのも運営委員の皆様方の日頃のご尽力は勿論のことではございますが、私どもの学会活動に平生から参加・ご協力いただいております皆様方のお力の賜だと感謝いたしております。今日は講師お二方をお招きいたしておりますが、お二人ともたいへんユニークな経歴をお持ちの先生方でございます。個々の先生方のご紹介は後に譲ることといたしますが、この暑い中、しかもお忙しい時間を割いて私どもの計画にご快諾下さり、遠路はるばるお出かけ下さいましたことを本当に感謝し、心よりお礼申し上げます。

ところで、日本の看護界とりわけ看護大学をめぐる周辺状況は、本当に目を見張るばかりの激変ぶりでございます。怒濤の如くという言葉がぴったりの現状で、あちこちで大学設立の動きがあり、そのうねりが押し寄せております。高知女子大学が創立されて41年目を迎えておりますが、この間6大学と言われた時代がずっと長く続きました。そして、やっと11大学になったと思っておりましたら、あっという間にこの4月からは全部で22校そして21大学が、学生募集ということで発足いたしました。私どもにとりましては、なにか複雑な心境がございます。もう少し緩やかな増加を願っておりますが、一県一大学構想の下なのでしょうか、あるいはこの機を逸しては大変だといったような思いからなのでしょうか凄まじい勢いで増えております。そうした中で、高知女子大学看護学科どこへいくという不安な気持ちで、やきもきされておられる方も中にはおありかと思えます。県の方でも改革検討委員会なるものを設立し、委員会での検討が重ねられております。先般の委員会ではもろもろのことは別として、看護学科については少なくとも学部独立と大学院の設置ということでは意見の一致をみたということでございます。私どもはそれに対して大いなる期待を寄せているところでございますが、この10月には

正式に委員会としての結論が出される予定と聞いております。その結論を経て知事さんが、また県がどのように受け止めてくださるのかというところまで来ていると思っております。後は、学長の腕に期待するところが多いわけですが、私どもも一生懸命その実現に向けて努力いたしてまいりたいと思っておりますので、どうぞ卒業生の皆様は勿論のこと、看護界の皆様方のご支援・お力添えを心からお願いし、開会のあいさつにかえさせていただきます。どうもありがとうございました。